

TPR を用いた子どもたちへの外国語教育

A study of the application of TPR for teaching English to children

黒川 愛子¹

Aiko Kurokawa

James J. Asher が幼児の母語習得の観察により考案した指導法 TPR は様々な外国語指導に有効であることが検証され、日本においても、中高校生を対象とした実証研究が行われ、4 技能向上への有効性が明らかとなっている。本研究では本学「親子公開講座・英語活動」及び「明日香幼稚園課外英語遊び」において、TPR を用いた活動を行い、活動に参加した子どもたちと保護者がどのような反応を示し、いかなる感想を抱いたかについて報告する。結論として、子どもたちは中高生同様に、動作が好きで、リスニング先行でレディネスができるまで発話を強制しない TPR を用いた活動に集中して取り組むことができることが観察された。

1. はじめに

1.1 研究の背景

2020 年度から、文部科学省 (2017a) により導入される小学校第 3 学年及び第 4 学年対象の「外国語活動」・小学校第 5 学年及び第 6 学年対象の「外国語科」(以下、「外国語活動」・「外国語科」) の全面実施が始まる。これらをいかに成功に導くかは、現在の日本の英語教育全体の重要課題である。文部科学省 (2017b) では 2017 年 4 月時点で、233 件 (小学校 2,392 校) が教育課程特例校として、「生活科」や「総合的な学習の時間」等の一部を組み替え、低学年から「英語科」や「外国語活動」等を導入していることを報告しており、詳細は明らかではないが、2020 年度から小学校低学年から「英語活動」を実施する自治体も多いようである。

ベネッセ教育総合研究所 (2019, p.19) は「子どもの生活と学びに関する親子調査」において、(1) 1 年生から 3 年生の男女及び 4 年生から 6 年生の男子の習い事が、「英会話・英語教室」が「スイミング」、「楽器・音楽教室」に次ぐ 3 位、1 年生から 3 年生の女子の 21.1% が「英会話・英語教室」に通っていること、(2) 小学生の保護者の 77% が「自動翻訳が進化しても、英語力が必要」と考え、「実際の場面で使える英語力を身につけさせたい」と回答した保護者は 8 割を超えていたこと、を報告している。保護者の英語教育への関心の高さを示す結果であると言えよう。

就学前の英語学習に関わっては、ベネッセ教育総合研究所 (2019, p.16) は、「第 3 回幼児教育・保育についての基本調査」において、(1) 私立幼稚園、私営認定子ども園の 6 割強が、日常の活動として「英語」を行っていること、(2) 「英語」を行う私立・私営の園では、3 歳児からの実施率が 5 割を超え、外部講師が指導する園が多いこと、を報告しており、日本において、早期英語教育が台頭していることがわかる。

バトラー後藤 (2015, pp.172-176) は、(1) 質のよい学習をできるだけ多く行うことが外国語の熟達度を高めることにつながり、早期英語教育の大きな鍵はインプットの充実と動機づけを高めることであること、(2) 日本の小学校ではアウトプット中心の授業をしばしばみかけ、十分なインプットのな

¹ 帝塚山大学 教育学部 准教授

いままにアウトプットを急がせることで児童によっては逆に英語を話すことへの抵抗感が増してしまう危惧があり、小学校段階では子どもたちが興味をもつやり方で良質のインプットをできるだけ多く与えることが重要であることを、強調している。筆者はこどもたちへの TPR 活用は、後藤の主張に合っていると考えている。筆者は日本人中学生を対象に Total Physical Response（以下、TPR）を用いた指導を行い、Kurokawa（2002）以来、TPR の有効性の検証を続け、黒川・鈴木（2011）では TPR のスピーキング力育成に対する有効性を、黒川（2012）では TPR のリスニング、リーディング、ライティング力育成に対する長期的影響を、黒川（2014）では TPR と TPR Storytelling のリスニング力とリーディング力育成に対する有効性を、黒川・鈴木（2014）では TPR のスムーズな小中接続に対する効果を報告した。本研究では、筆者が担当した本学「親子向け公開講座」及び「地域連携事業」における「英語活動」及び「英語遊び」において行った TPR を用いた活動について報告し、TPR を用いたこどもたちへの外国語教育についての考察を述べる。

1.2 TPR とは

TPR は、James J. Asher が幼児の母語習得の観察によって考案した指導である。TPR は（1）リスニングをスピーキングに先行させて十分に行う、（2）リスニング力は身体の動きを通して伸ばす、（3）レディネスが出来るまで発話を強制しない、という三つの原則（Asher, 2009:2-4）に基づく。これらの TPR 原則に基き、学習者は、教師または他の学習者が発する外国語文を聴いて、その意味を動作で表現し理解を進める。TPR は様々な言語による実践例により、その効果が報告されており（Asher, 1965, 1969, 1972, 2009）、現在でもアメリカを中心に世界中で用いられている。日本では、河野（1972）により紹介され、中高校生を対象とした TPR 研究において 4 技能への有効性及びスムーズな小中接続への有効性が実証されており、門田（2012, p.384）も「わが国で大規模な実証研究により、その効果がかなりの程度明らかにされている教授法である」としている。白井（2012）では、小学校ではインプットモデルに基づいた教え方をすることが最も適切であり、十分な効果が立証されている TPR は望ましい方法の一つであり、小学生の発達段階に適しているとしている。

2. 先行研究

海外及び日本における TPR 研究については、黒川・鈴木（2011, 2014）、及び黒川（2016）で詳細に述べたので、本稿では紙数の関係から国内の TPR 研究の略述にとどめる。日本人中学生対象の TPR 研究として、筆者が行った研究以外に、Takahashi（1981）、Kawabuchi（2005）、Takao（2007）、藤間（2008）、日本人高校生対象の TPR 研究には鈴木（2001）、Yoshioka（2002）、Shimizu（2005）、中川（2008）、浅井（2011）がある。

TPR は大人への効果（Asher & Price, 1967）が実証されているが、日本では、TPR が外国語学習の初期段階に効果的な指導法であるとする意見が多い。アレン玉井（2010, pp.79-81）は TPR の利点として、体を動かすことで緊張がとけ、学習者の精神的な負担が軽減され、楽しい活動で授業が活性化するとしている。酒井（2014, pp.134-135）では、（1）教師が理解可能なインプットを与えられ、（2）動作という言語外情報によって意味理解を促進させ、（3）身体の各部分、数、空間の関係、色、形、感情、衣服など、幅広い概念を扱うことができ、（4）リラックスした雰囲気の中で楽しんで活動をさせることができ、（5）教師が学習者の行動・反応を見て、指示の難易度を調整することができる等の TPR の利点を挙げている。泉（2017, p.23, p.130）も TPR の特徴として、話すことを強要しないことから、学習者が緊張したり不安を覚えたりすることなく学習に取り組める利点があるとし、小学校で TPR を用いて指導を行った山本（2018, p.163）では「TPR は非常に効果的なリスニング活動であり、小学校の

45 分間のすべて授業が TPR だと言ってもよい」としている。これらの見解があるにも関わらず、日本の TPR 研究は中高生対象のものが中心である。本研究では、TPR の三つの原則 (Asher, 2009:2-4) に基づいた、幼児・児童対象の TPR 活用の一提案を行う。

3. 研究の目的

本研究の目的は、就学前の幼児を対象とした「英語遊び」、及び児童を対象とした「英語活動」において TPR を用いた活動を、幼児・児童・保護者がそれぞれ、どのように受け止めるかについて調べることである。

4. 研究の方法

4.1 参加者

本研究の参加者は、筆者が指導を行った本学 2018 年度「親子向け公開講座」における「英語活動」(以下、「親子向け公開講座・英語活動」)に参加した 4 組の親子(保護者 4 名、小学 1 年生 3 名、小学 2 年生 1 名、小学 3 年生 1 名、小学 5 年生 1 名、3 歳児 1 名、1 歳児 1 名)及び、本学「地域連携事業」による「明日香幼稚園課外英語遊び」(以下、「明日香幼稚園課外英語遊び」)に参加した幼児 23 名(年中組 12 名・年長組 11 名)である。「親子向け公開講座・英語活動」に関わっては、募集定員が親子 6 組で、体調による当日欠席があり、親子 4 組となった。1 歳児は保護者に抱かれての安心感からか泣き出して退出することもなくの参加であった。

4.2 手順

4.2.1 「親子向け公開講座・英語活動」

「親子向け公開講座・英語活動」は、「親子で楽しもう！小学校『外国語活動』・『外国語科』－外国語を聴き、体の動きを通して学ぶ TPR を用いて－」というタイトルで、筆者が、幼児・児童とその保護者を対象に、本学保育演習室で、休憩を含んで約 90 分間の講座として行ったものである。

表 1 に「親子向け公開講座・英語活動」の流れを示す。

表 1 「親子向け公開講座・英語活動」の流れと内容

活動	内容
1 あいさつ	絵カードを用いて、日本語も加えながらの初対面の挨拶や曜日・天気等をたずねた。
2 えいごのうたをたのしみましょう。	ABC ソングと Number song 1-20 を流し、一緒に歌った。
3 じこしょうかい	Hello, I'm なまえ. I'm from うまれたところ. I'm ねんれい. I like すきなたべもの. と説明し、言えることを言ってみようと、日本語をまじえながら行った。
4 TPR Warm Up TPR をたのしみましょう。	筆者作成の人造語を発話し、それらを聞きながら筆者とともに簡単な動作を行った。次に筆者が発話する英語を聞いて、筆者とともに動作を行った。
5 えほんをたのしみましょう。	プロジェクターに絵本を映し出し読み聞かせを行った。
6 Train Game でんしゃゲーム	Rock, paper, scissors, shoot. と筆者と練習を行ない、ゲームの説明をしてから、じゃんけんに負けたら列の後ろにつくゲームを行った。

		break
7	Enjoy TPR more! (○×ゲーム) TPRをもっとたのしみましょう。	筆者の英語の質問を聞き、答えが Yes なら○の場所へ No なら×のほうへ移動するゲームを行った。
8	えをみてうごきましよう。	近くから見るのと遠くから見るのでは見え方が異なるだまし絵を用意し、Walk to the white board. の指示で、絵の近くに行き、Look at the picture. の指示で絵を見る。 Turn back and walk. Work more. の指示で、絵から遠く離れて見る、というように動作を行い、見え方が場所によって異なるだまし絵を見て、こどもたちは楽しんだ。
9	Sticky game わになりましよう	英語を聞きながら順に動作を行い、最後はみんなで輪になるゲームで、This is Ken. Emi, touch Ken's shoulder. のような筆者の英語の指示と動作に従い、順にとりかきの人と輪を作っていた。
		Break
10	ダイナマイト・ゲーム	全員で輪になり、ダイナマイト・ナンバー（言わない数字）を伝え、1人ひとり順に1から10までの数字を英語で言っていく。自分が言数字を言う番になったときの数字がダイナマイト・ナンバーであれば、自分の右側の人を右親指で指さす。間違えて、その数字を言えば、輪の真ん中に行き、次に間違えた人と交代して、自分の場所に戻る。ゲーム前に、まず、1から10までの数を言う練習を行い、ゲーム説明を十分に行ってから始めた。
11	パスポートづくりをたのしみましよう。	事前に用意された色画用紙に、自分の名前、年齢、誕生日、好きなものを書き、絵も描き、自分が作りたいパスポートを作った。
12	じぶんのパスポートしょうかい	各自で作ったパスポートを互いに見せ合った。
13	振り返り	感想文用紙に回答や記述を行った。

表1に示した活動において、基本的なTPRを用いた指導が項目4のTPR Warm Upであるが、項目7の○×ゲーム、項目8の「えをみてうごきましよう」及び項目9のsticky gameも、英語を聞いて自分で考え動作を行っている活動であり、TPRの要素を含んでいると言えるであろう。

4.2.2 「明日香幼稚園課外英語遊び」

明日香村教育委員会と本学との「地域連携事業」として、「明日香幼稚園課外英語遊び」を年中児と年長児を対象に2018年10月に行った。「明日香幼稚園課外活動」は通常の活動終了後の15時から保護者が迎えに来られる16時半までの1時間半設定であるが、手洗い、おやつ、終わりの歌等があり、本研究では、約1時間を用いて「英語遊び」を行った。通常、この取組は毎回、活動設定と指導を本学教育学部教員1名が担当し、幼稚園教諭を志望する4回生約6名が活動に加わる。また別の本学教育学部教員1名がビデオ録画及び記録観察を担当する。幼稚園教諭1名が補助でついでくださるが、基本的には本学教員と学生で行う活動である。明日香幼稚園では、明日香村教育委員会が採用し、明日香小学校も訪問する外国人講師が、毎週金曜日午前9時半から11時半の間、園の活動に参加し、園児には必ず英語で話しかけ接するという取組を行っておられる環境がある。

表2に「明日香幼稚園課外英語遊び」の流れと内容を示す。

表2 「明日香幼稚園課外英語遊び」(からだをうごかしてたのしいえいごあそび)の流れと内容

活動	内容
1 「えいごのてあそび」	記録担当教員が、日本語での手遊び「あたま かた ひざ ポン」を行った後に、「英語バージョンを知っている？」の声掛けで筆者が英語で挨拶をして、子どもたちは Head, shoulders, knees and toes と歌いながらともに動作を行った。
2 TPR Warm Up 「えいごでたのしくうごこう」	筆者の「先生が英語で言うので、先生と同じ動作をしたらいいですよ」の声掛けで、子どもたちは、英語を言いながら、筆者・学生とともに動作を行った。
3 かんたんじこしょうかい	I'm ~. I like ~. と自己紹介を行う。筆者と練習をした後に、年中組縦2列、年長組縦2列で並んだ後、クラス混合で3~4名の6グループに分かれ、各グループを各学生が受け持って自己紹介遊びを行った。
4 Train game 「じゃんけんでんしゃゲーム」	英語のジャンケンをして負けたら後ろについて、どんどん電車が長くなっていく遊びである。英語のジャンケンの言い方 Rock, paper, scissors, shoot! と練習をした後に、大学生が見本を見せた。
5 「○×ゲーム」	絵カードを用いて筆者が Do you like ~? と質問し、好きなら○、嫌いなら×のカードが置かれたほうへ動くゲーム、○・×カードの間にロープが置かれた。
6 「3ヒントクイズ」	英語で3つヒントを出し、それが何かを考え答えるゲームである。

表2で示した「えいごのてあそび」及び「○×ゲーム」がTPRの要素を含む活動である。筆者は中学生を対象にTPRを用いた語彙指導及び文型指導を行ってきたが、表1及び表2に示したとおり、本研究では中学校英語授業の最初に行ってきたTPR warm upの一部を子どもたちとともに行った。表3に表1と表2に示したTPR warm upで用いた英文を示す。表3で示す英文の場合、最初から全員でその場で動作が可能であり、英文の数は多くても、短時間で行うことが可能である。

表3 「親子公開講座・英語活動」及び「明日香幼稚園課外英語遊び」のTPR warm upで用いた英文

1. Stand up. 2. Sit down. 3. Stand up again. 4. Sit down again. 5. Stand up again. 6. Raise your right hand.
7. Wave your right hand. 8. Stop waving. 9. Put your right hand down. 10. Raise your left hand. 10. Wave your left hand.
11. Stop waving. 12. Put your left hand down. 13. Raise both of your hands. 14. Wave them. 15. Stop waving.
16. Clap your hands once. 17. Clap your hands three times. 18. Clap your hands many times. 19. Put your right hand down.
20. Put your left hand down. 21. Stamp your right foot once. 22. Stamp your left foot twice. 23. Jump low once.
24. Jump high once. 25. Squat. 26. Stand up again. 26. Clap your hands five times. 27. Walk slowly. 28. Stop walking.
29. Turn around. 30. Walk to the wall. 31. Touch the wall. 32. Go back to your seat.

4.3 検証の方法

「親子公開講座・英語活動」は、筆者の観察と参加者の感想用紙への回答・記述から検証を行う。「明日香幼稚園課外英語遊び」については、筆者及び活動記録担当教員の観察記録より検証を行う。

4.3.1 「親子公開講座・英語活動」感想用紙

子ども向けの「かんそうようし」内の質問は(1)今日の授業は楽しかったですか、(2)今日の授業はわかりやすかったですか、(3)いろいろな動作をして、どうでしたか、(4)自由に感想を書いてく

ださい、の4点で、(1) から (3) の回答は5件法で参加者は適する数字を○で囲む形式とした。回答例を示すと、質問(1)に対する回答は、5 楽しかった、4 どちらかと言えば楽しかった、3 どちらとも言えない、2 どちらかと言えば楽しくない、1 楽しくない、である。質問・回答とも平仮名記載である。保護者向け感想用紙は、「自由に感想をお書きください」とした自由記述形式である。

4.3.2 「明日香幼稚園課外英語遊び」観察記録

本学「地域連携事業」においては、明日香幼稚園課外活動に関わり、毎回、事前に活動に参加する学生と「活動記録」を担当する教員に、担当教員が活動指導案を配布しておき、当日はビデオ録画を行なう。活動記録担当教員は活動中に活動指導案をもとに活動記録を行い、活動翌日には所定の記録用紙への入力を終え、本学部教員全員が見ることができるドライブに保存を行う。本研究における「明日香幼稚園課外英語遊び」の観察記録に示す活動記録担当教員²の考察・感想については、この「活動記録」を用いた。筆者の観察については、当日の筆者による振り返りを観察記録とした。

5. 結果と考察

5.1 「親子向け公開講座・英語活動」における筆者の観察と考察

表4に「親子向け公開講座・英語活動」における筆者の観察と考察を示す。

表4 「親子向け公開講座・英語活動」における筆者の観察と考察

活動	筆者の観察と考察
1 Greeting あいさつ	こどもたちは緊張した面持ちではあったが、保護者がともにいる安心感も強い様子で、明るい活動のスタートとなった。
2 Enjoy singing English songs! えいごのうたをたのしみましょう。	ABC ソングは楽し気に歌ったが、Number song 1-20 は難しかった様子であった。
3 Enjoy introducing yourself! じこしょうかい	言いにくそうにしているこどもたちには、筆者の英語の後に自分の名前を言う等の支援を行い、発話することができた。
4 TPR Warm Up TPR をたのしみましょう。	最初は人造語であり、保護者も興味深く加わってくださり、こどもたちも楽し気であった。英語になった段階でも、「しっかり聞き一緒に動こう」というこどもたちの集中力を感じた。
5 Enjoy English picture books! えほんをたのしみましょう。	画面上ではなく、実際の絵本を見せながらの読み聞かせをするべきだったと考える。
6 Train Game でんしゃゲーム	こどもたちは保護者と一緒に楽しく取り組んだ様子であった。
break	
7 Enjoy TPR more! (○×ゲーム) TPR をもっとたのしみましょう。	床の上に引いたロープをまたぎながら、楽しく移動を行っていた。「動く」こと自体を楽しむ様子であった。
8 えをみてうごきましょう。	「だまし絵」は大変興味深かった様子で、絵に近づいたり離れたりして、親子ともに楽しんでいる様子であった。
9 Sticky game わになりましょう	英語を聞いて段々輪になっていく活動で、しっかり聞いて動くというこどもたちの楽し気な様子が観察された。
break	
10 ダイナマイト・ゲーム	考えながら発話しなくてはならず、難しい活動であった。

11	パスポートづくりをたのしみましょう。	こどもたちは楽しく、保護者の横で、安心して取り組んだ。
12	つくったパスポートをしょうかいしよう。	恥ずかしそうにしながらも、自分の作品を他者に見せることを楽しんでいる様子であった。

表4から、TPR warm up、「○×ゲーム」、「えをみてうごきましょう」、及び sticky game という英語を聞いて動作を行う活動の中で、こどもたちが「動作を行う」こと自体に楽しさを感じていたことがわかる。動作を行うためには英語を聞かなくてはならないが、こどもたちは動作を行いたいから英語を聞いていたとも考えられ、TPRが小学校段階に合う適切なインプット方法である(白井, 2012)ことを示す結果と言えよう。また「じこしょうかいをしよう」や「ダイナマイト・ゲーム」で観察されたこどもたちのとまどいの様子からも、「レディネスが出来るまで発話を強制しない(Asher, 2009:2-4)」TPR基本理念の認識の必要性は明らかである。

5.2 「親子公開講座・英語活動」に対するこどもたち及び保護者の回答及び記述結果

表5及び表6に「親子公開講座・英語活動」の「かんそうようし」に対するこどもたちの回答及び記述結果を、表7に保護者の感想用紙への記述を示す。

表5 こどもたちの「かんそうようし」選択式質問に対する回答(記述者: 児童6名)

今日の授業は楽しかったですか。	5 楽しかった6名(100%)
今日の授業はわかりやすかったですか。	5 わかりやすかった4名(67%) 4 どちらかと言えばわかりやすかった2名(33%)
いろいろな動作をして、どうでしたか。	5 面白かった5名(83%) 4 どちらかと言えば面白かった1名(17%)

表6 こどもたちの「かんそうようし」への自由記述(記述者: 児童5名)

小学1年生	たのしかった。	ありがとうございました。
小学2年生	あいこ先生がやさしかったので、またいきたいなと思いました。	
小学3年生	また、これくらい楽しいえいごのじゅぎょうをしたいです。	
小学5年生	遠くから絵を見たり、近くから見たりするのは、近くから見ても少しわかった。	

表7 「親子公開講座・英語活動」感想用紙への保護者の記述(下線は筆者による)

小学1年生と1歳児の保護者	<u>小学生は体を動かす活動をする</u> と一気に集中力が増すんだなあと感じました。楽しく活動できて良かったです。
小学1年生の保護者	英語を習っているお子さんが多いので、すでに勝手にこどもが苦手意識を持っている気がしていましたが、最後のパスポートづくりで先生に聞きに行ったりして意欲はあるのかなと思いました。こういうきっかけをいただき、ありがとうございました。
小学2年生・5年生及び3歳児の保護者	<u>遊びや体を動かすことで自然に英語を学ぶ</u> ことができ、楽しかったです。英語は私が学生の頃より身近であり、小学校の授業にも組み込まれており、英語アレルギーにならないよう、 <u>楽しんで学べる手法は大切だ</u> と感じました。
小学1年生・3年生の保護者	初めての参加で、こども達も緊張気味でしたが、 <u>楽しく英語に慣れ親しむ</u> ことができたと感じます。 <u>家庭でできそうな英語教材</u> などがあれば知りたいです。

表 5 及び表 6 内の児童の回答・記述からも、TPR を活用した本活動を楽しく、面白く、わかりやすいと受け止めたことがわかる。表 7 に示した保護者の記述から、動作を伴って英語を学ぶ経験が少なかったと推測できる保護者自身が、こどもたちの様子から、その楽しさを感じてくださったことも観察できる。

5.3 「明日香幼稚園課外英語遊び」の結果と観察

表 8 に「明日香幼稚園課外英語遊び」の観察記録を示す。

表 8 「明日香幼稚園課外英語遊び」(からだをうごかしてたのしいえいごあそび) の観察記録

活動	観察記録 ◎は筆者、*は活動記録者の観察・感想を示す。
1 えいごのであそび	◎こどもたちとは初対面の筆者であったが、「英語遊び」への抵抗感はない感で、楽しいスタートとなった。*Head, Shoulders, Knees and Toes と歌って動作し始めると園児は一斉に立ち上がり、どんどん真似をして動作を行った。園児は「さらに速く動作をしたい」という気持ちが高まり、盛り上がった様子であった。
2 TPR Warm Up 「えいごでたのしくうごこう」	◎インプットを行う際の準備態勢がこどもたちの中にしっかりあり、筆者の発話が始めると一斉に聞くことに集中したと観察できた。*園児は英語を理解しようとしながら、学生や先生の動作も見ながら動くことができ、「先生の動作なしでやってみよう」と声掛けされたとき、できたときには拍手が起こった。
3 かんたんじこしょうかい	◎英語を発話することへの緊張は高いと感じた。特に個別の発話で行ったため、適切ではなかったと感じた。*好きなものをたくさん言う園児もいれば、「I'm ~. は自分の名前じゃない」と発言する園児もいた。
4 Train game じゃんけんでんしやゲーム	◎担任の幼稚園教諭が加わってくださり、スムーズな動きで、こどもたちは非常に楽しそうであった。こどもたちをよく知る学担任が加わることで活動がさらに活性化したと感じた。*園児はこのゲームの経験があった様子であった。ジャンケンでは英語を言っているにもかかわらず、手の形は3回ともグーだったりする園児も多かった。
5 O×ゲーム	*「嫌い」と答えること自体を楽しんでいる様子のこどももいて、×のところから動かないこどももいた。
6 3 ヒントクイズ	◎こどもたちの英語を聞いて、いち早く答えたいという熱気を感じた。 *答えが合わなかったとき、しょんぼりするこどもがおり、その際の言葉かけの配慮が必要であると感じた。

表 8 で示した観察記録からも、こどもたちが動作自体が好きであること、動作をするために英語を聞く必要があるときに集中力を持って聞こうとする態勢ができることがわかる。しかしながら、「かんたんじこしょうかい」において観察されたこどもたちの様子からも、アウトプットの強制を行うべきでないことが明らかであると考えられる。また学級担任の先生が活動に加わってくださり、そのことがこどもたちの活動への大きな支援となったことは、小学校「外国語活動」・「外国語科」の全面実施における学級担任が指導にいかに加わるかの重要性を示唆していると観察できる。

6. 結論と今後の課題

本研究はこどもたちを対象としたわずか 2 回の実践紹介であり、参加者の数も少ないが、これまで

の中学生・高校生を対象に行われてきた TPR 研究から明らかとなっているように、こどもたちが動作が好きであることや、こどもたちへの TPR 活用は、アウトプットに向けてのレディネスが十分にできあがるまでの適切なインプットを与える指導であることは明らかであろう。そのためにも、今後、こどもたちを対象に TPR 理念に沿った指導をいかに行っていくべきかの提案を行い、データに基づく実証研究は行っていく必要があり、探究を続けていきたいと考えている。

本研究がこどもたちを対象に TPR 活用をいかに行っていくかの一提案になれば幸いである。

謝辞

本研究における「親子公開講座・英語活動」及び「明日香幼稚園課外英語遊び」の参加者の皆様、保護者の皆様、明日香幼稚園教職員の皆様、本学教育学部・教学支援課・広報課の皆様に感謝申し上げます。「親子公開講座・英語活動」において、ご支援くださった本学広報課石山直樹様、本学総務課高橋寛雅様、本学教育学部西村真実准教授、2018 年度「明日香幼稚園課外英語遊び」において、ご支援くださり、観察記録を担当してくださった本学教育学部岡澤哲子教授、ともに活動に参加してくれた学生のみなさん、本稿に関わり、貴重なご意見、ご助言を賜りました本学教育学部長勝美芳雄教授、本学教育学部こども教育学科長清水益治教授、本学教育学部石田慎二教授、本稿投稿に関わり、ご支援いただきました本学教学支援課垣内英人様に厚く、御礼申し上げます。

注

- 1 文部科学省での表記は「子ども」であるが、本研究の参加者は未就学児を含むため、「こども」の表記とする。
- 2 活動記録担当教員には本研究での発表の了承を得ている。

参考文献

- アレン玉井光江 (2010). 『小学校英語の教育法 理論と実践』大修館書店.
- 浅井玲子 (2011). 「TPR による文法指導実践」『英語教育研究 (関西英語教育学会紀要)』 34, 101–110.
- Asher, J. J. (1965). The strategy of the total physical response: An application to learning Russian. *International Review of Applied Linguistics*, 3, 291–300.
- Asher, J. J. (1969). The total physical response approach to second language learning. *The Modern Language Journal*, 53, 3–17.
- Asher, J. J. (1972). Children's first language as a model for second language learning. *The Modern Language Journal*, 56, 133–39.
- Asher, J. J. (2009). *Learning another language through actions. (7th ed.)* Los Gatos, CA, Sky Oaks Productions.
- Asher, J. J., & Price, B. S. (1967). The learning strategy of the total physical response: Some age differences. *Child Development*, 38, 1219–1227.
- バトラー後藤裕子 (2015). 『英語学習は早いほど良いのか』岩波書店.
- ベネッセ教育総合研究所(2019). 「第3 回幼児教育・保育についての基本調査」.
- 藤間香織 (2008). 「TPR を用いた高校生用語彙指導教材の開発」京都外国語大学大学院個人研究成果報告書.
- 泉恵美子 (2017). 「2 章関連分野からみる外国語教育の意義と方向性」樋口忠彦・加賀田哲也・泉恵美子・衣笠知子編著. 『新編小学校英語教育入門』 pp. 164–26. 研究社
- 門田修平 (2012). 「第 11 章音読・シャドーイングを支える理論的背景」鈴木寿一・門田修平編著『フォニックスからシャドーイングまで英語音読指導ハンドブック』 pp. 320–388. 大修館書店.

- Kawabuchi, K. (2005). *Long-term retention of English through total physical response at junior high school level*. Unpublished master's thesis, Nara University of Education.
- Kurokawa. (2002). *The application of total physical response for developing listening fluency and improving communicative competence*. Unpublished master's thesis, Kyoto University of Education.
- 黒川愛子 (2012). 「日本人中学生のリスニング, リーディング, ライティング力育成に対する TPR の長期的影響に関する実証的研究」 『英語教育研究 (関西英語教育学会紀要)』 35, 79-97.
- 黒川愛子 (2014). 「日本人中学生のリスニング力とリーディング力育成に対する TPR と TPR Storytelling の有効性に関する実証的研究—中学3年生段階での活用—」 『英語教育研究 (関西英語教育学会紀要)』 37, 39-58.
- 黒川愛子 (2016). 「日本人中学生の4技能向上に対する TPR と TPR Storytelling の有効性に関する実証研究」 京都外国語大学大学院後期課程博士論文 (言語文化学) 甲第 13 号.
- 黒川愛子・鈴木寿一 (2011). 「日本人中学生のスピーキング力育成に対する TPR の有効性に関する実証的研究」 『LET 関西支部研究集録』 13, 93-111.
- 黒川愛子・鈴木寿一 (2014). 「小学校外国語活動と中学校英語教育とのスムーズな接続に対する Total Physical Response の有効性に関する実証研究」 *Language Education & Technology*, 51, 51-80.
- 河野守夫 (1972). 「演示・劇化」 金田正也 (編) 『講座英語教育工学3・教授メディアと授業』 pp. 81-105. 研究社.
- 文部科学省 (2017a). 『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示)』 文部科学省.
- 文部科学省 (2017b). 「教育課程特例校について (平成 29 年 4 月現在)」 . https://www.mext.go.jp/component/_a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/15/1284970_001.pdf.
- 中川めぐみ (2008). 「高等学校における文法を扱った教科書に基づく TPR による文法指導教材開発」 京都外国語大学大学院修士論文.
- 酒井英樹 (2014). 『小学校の外国語活動の基本のき』 . 大修館書店.
- Shimizu, I. (2005). *The effects of vocabulary learning through TPR on sentence comprehension*. Unpublished master's thesis, Kyoto University of Education.
- 白井恭弘 (2012). 『英語教師のための第二言語習得論入門』 . 大修館書店.
- 鈴木寿一 (2001). 「英語が苦手な生徒を救う英語指導法」 外国語教育メディア学会関西支中高授業研究部会主催第 3 回中学・高校教員のための英語教育セミナー講演資料.
- Takahashi, T. (1981). *An empirical study on listening-skill building: neuro linguistic approach*. paper presented at the First International Conference on Foreign Language Education and Technology, Tokyo.
- Takao, N. (2007). *The effectiveness of teaching English through total physical response in a Japanese Junior High School*. Unpublished master's thesis, Kyoto University of Foreign Studies.
- 山本玲子 (2018) . 「第 10 章小学校でのリスニング指導」 鈴木寿一・門田修平編著『英語リスニング指導ハンドブック』 pp. 159-166.大修館書店.
- Yoshioka, K. (2002). *The effectiveness of total physical response on grammar and learning vocabulary*. Unpublished master's thesis, Kyoto University of Education.